

固形癌の疫学

連載 第3回

固形癌の動向

津熊 秀明*

はじめに

癌の動向に関する情報は、癌の要因解明、癌予防活動の企画・評価を行ううえで必須である。とりわけ生存率が比較的良好な癌の動向をみる場合に死亡統計は不十分であり、癌の発生自身を計測する罹患統計が不可欠となる。厚生省がん研究助成金による「地域がん登録」研究班（現主任研究者：大島明）では、登録精度が一定水準に達した5～8府県市の地域がん登録データを基に、1975年

以降毎年わが国の癌罹患数・率を推計し、昨年には1993年の値を公表した¹⁾。また1975～1993年までの全国値を基に、2015年までの5年毎の全国罹患数・率を推計した²⁾。本稿では、こうした成績を用いてわが国の固形癌の動向を概説する。

1. 性別・部位別にみた癌罹患数の動向

図1に、1995年の全国罹患数(推計値)を性別主要部位別に示した²⁾。全部位では男性27.8万、女性19.7万の計

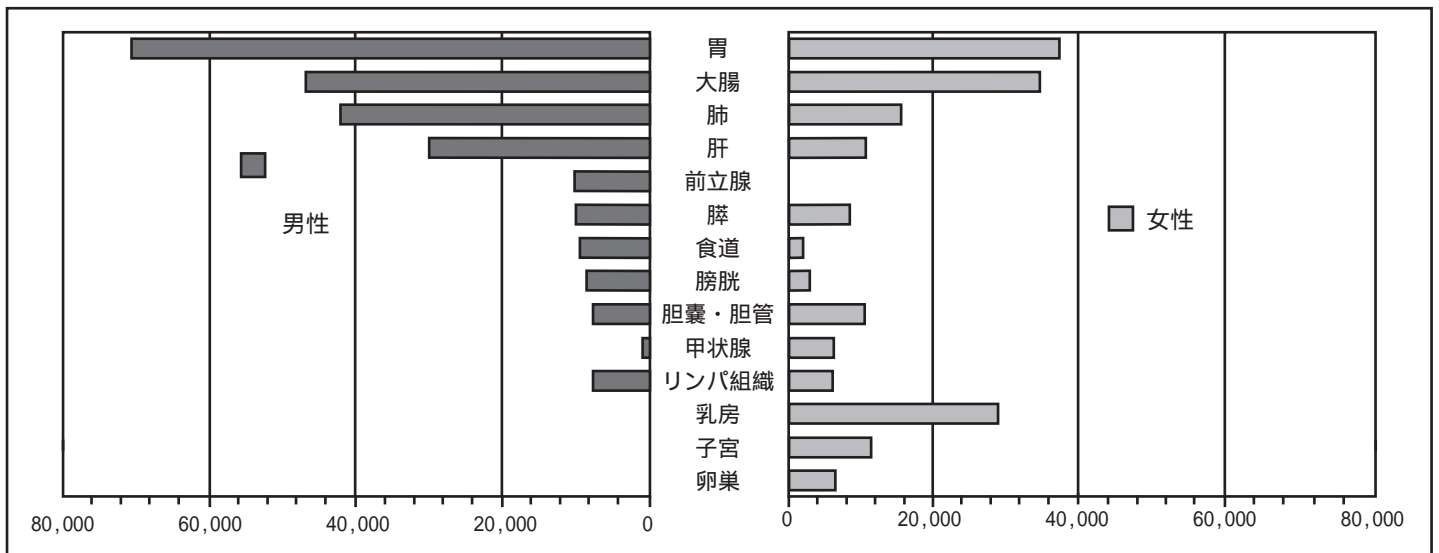


図1 性別主要部位別にみた全国癌罹患数 - 1995年推計値

固形癌 の疫学

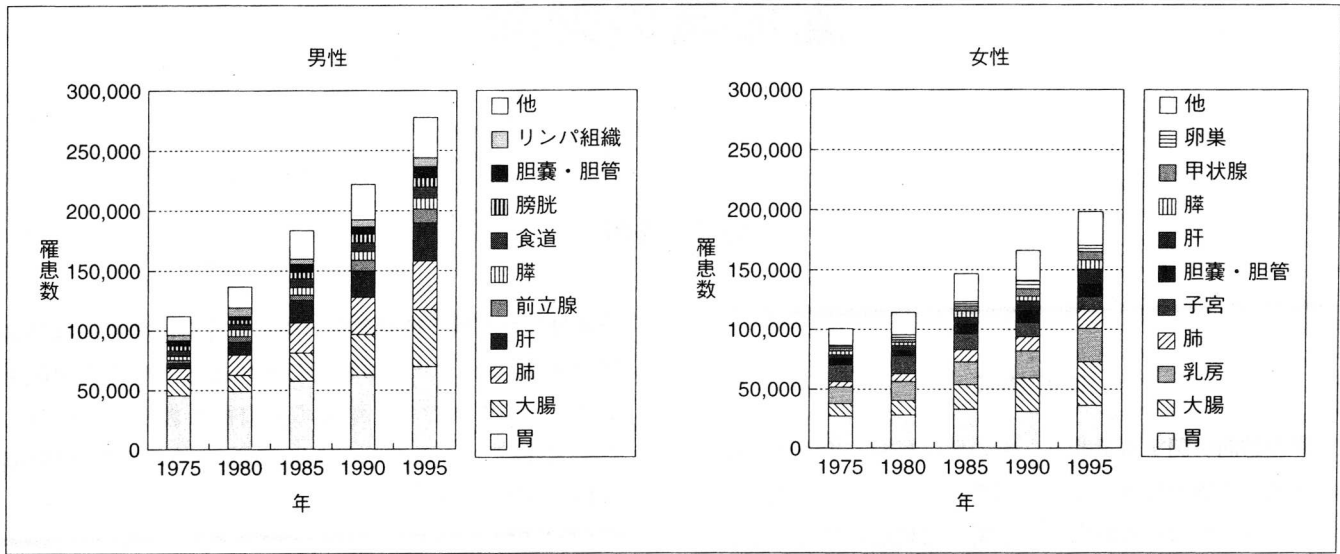


図2 性別主要部位別にみた全国癌罹患数の年次推移 - 1975～1995年推計値

47.5万の罹患があり、この年の癌死亡のおよそ1.8倍と推計された。罹患数の上位10部位は、多いものから順に男性では胃、大腸、肺、肝、前立腺、膵、食道、膀胱、胆嚢・胆管、リンパ組織であり、女性では胃、大腸、乳房、肺、子宮、胆嚢・胆管、肝、膵、甲状腺、卵巣であった。これら10部位の全癌に占める割合は、男性89%、女性86%であった。

図2には、1975～1995年の20年間にわたる全国罹患数の動向を性別主要部位別に示した²⁾。全癌罹患数はこの間に男性で2.5倍、女性で2.0倍に増加した。部位別には、男では食道、大腸、肝、胆嚢・胆管、膵、肺、前立腺、膀胱で、女性では大腸、肝、胆嚢・胆管、膵、肺、乳房、卵巣、甲状腺の各癌で、全部位を上回る高い増加比を示した。

は男女とも漸増していた。部位別には、胃と子宮で減少傾向にある以外は、図示したすべての部位で増加しており、特に結腸、前立腺、乳房での増加が顕著であった。肝、胆嚢・胆管、膵、肺ではここ数年上昇が鈍化ないし減少の兆しが観察された。

3. 注目すべき結腸癌と肺癌の動向

増加傾向の最も顕著な結腸癌、そして1998年の男女計の癌死亡で胃癌を追い抜き首位になることが確実視される肺癌について、さらに詳細なデータを図4、図5に示した。

「5大陸のがん罹患Vol.」³⁾から結腸癌の累積罹患率(0～74歳、生涯の累積リスクを表す指標、%)を日・英・米(人種別)で比較した。日系米国人での結腸癌罹患リスクが米国白人と肩を並べるか凌駕していることがわかるが、わが国の地域がん登録データでもすでに英国並みか、英国を超えるまでに至っている(図4)。

肺癌の致命率は極めて高く、死亡率の動向がそのまま

2. 性別・部位別にみた癌年齢調整罹患率の動向

図3では、主要部位の1975～1993年の年齢調整罹患率(1985年モデル人口10万対)の動向を示した¹⁾。全部位で

固形癌 の疫学

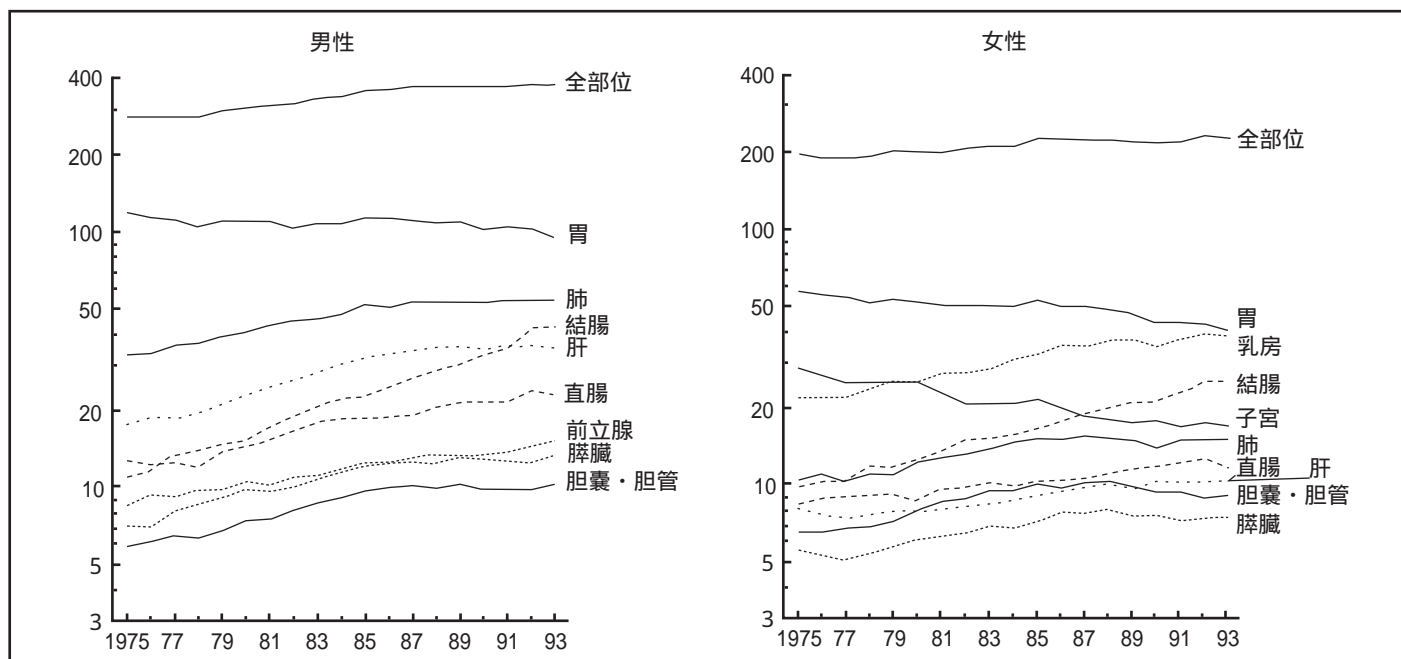


図3 性別主要部位別にみた全国癌年齢調整罹患率の推移 - 1975 ~ 1993年

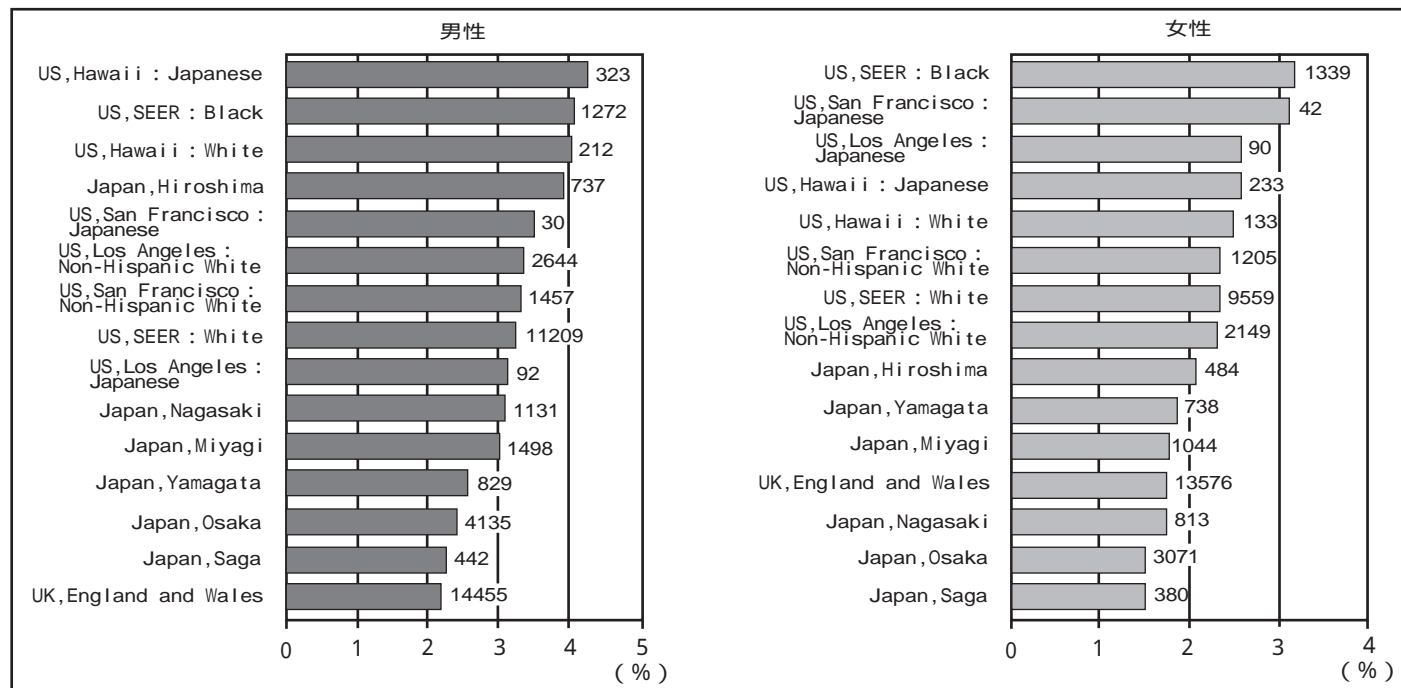


図4 国別・人種別にみた結腸癌の累積罹患率 - 1988 ~ 1992年, 0 ~ 74歳

(注)棒グラフに示した数値は罹患数

固形癌 の疫学

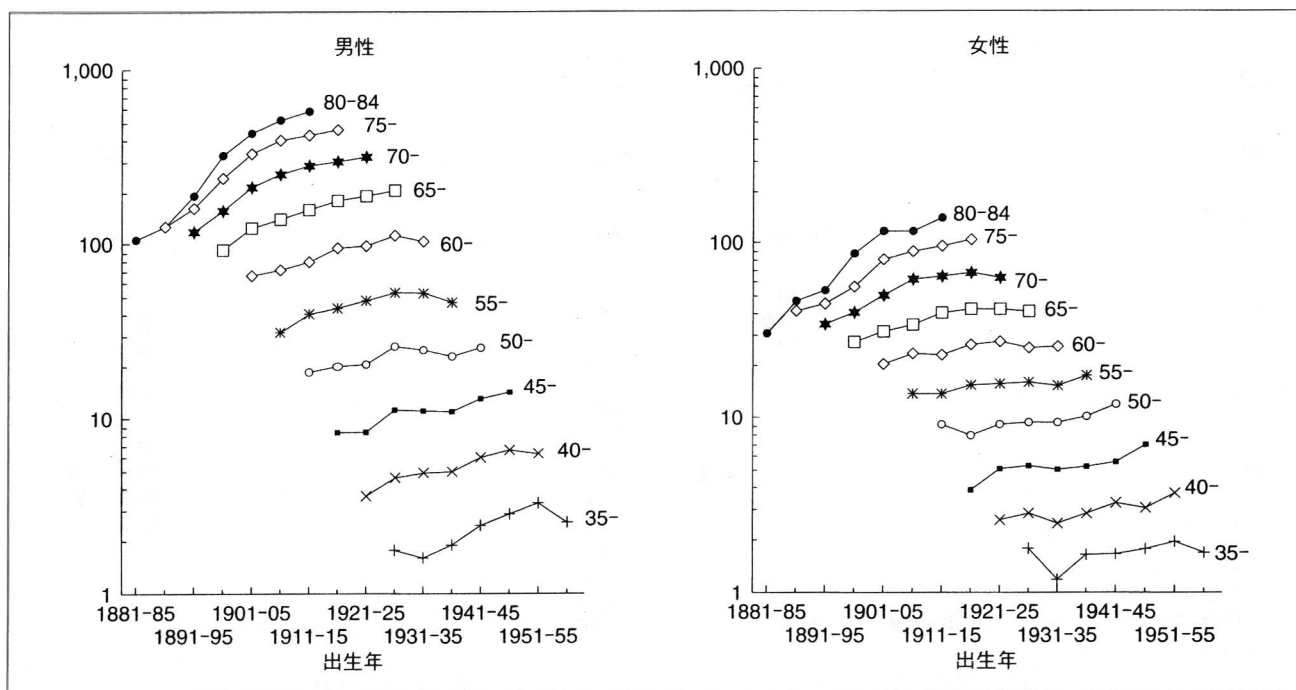


図5 性別年齢階級別・出生年別肺癌死亡率

罹患率の動向とみなし得る。図5では、わが国の30年間にわたる肺癌死亡率(1965～1995年、人口10万対)⁴⁾⁵⁾を性年齢階級別・出生年代別に表示した。同じ年齢階級でも出生年によって動向が異なり、男性では55～59歳ないしこれより高齢で、出生年が最近のものほど死亡率が高くなったが近年は上昇が緩やかになり、55～64歳では減少の兆しをみせた。50～54歳ないしこれより若年では、上昇傾向が続いていた。女性でも似た傾向を示したが、男性で観察された55～64歳での減少の兆しは認められず、40～59歳で顕著な上昇傾向が持続していた。

動向を的確にとらえ、癌研究の今後の方向性を定め、癌対策の企画・立案を行うことが重要である。

文献

- 1) The Research Group for Population-based Cancer Registration in Japan. Cancer incidence and incidence rates in Japan in 1992-93: Estimates based on data from seven population-based cancer registries. *Jpn J Clin Oncol* 28: 641-647, 1998
- 2) 北川貴子, 味木和喜子, 津熊秀明, 他: 日本のがん罹患の将来予測 - 1975-93年全国罹患率(推計値)に基づく将来推計. 富永祐民, 他(編): *がん・統計白書*. 1999. 篠原出版.(印刷中)
- 3) Parkin DM, Whelan SL, Ferlay J, et al (eds): *Cancer Incidence in Five Continents*, Vol. . IARC Scientific Publication No.143, IARC, Lyon, 1997
- 4) 黒石哲生, 広瀬加緒瑠, 田島和男, 他: 日本におけるがん死亡(1950-1990). 富永祐民, 他(編): *がん・統計白書*. 篠原出版. pp.1-105, 1993
- 5) 平成7年都道府県別年齢調整死亡率 人口動態統計特殊報告1995.

おわりに

以上のようにわが国の固形癌の動向は、この20～30年間に激変した。年齢調整罹患率の動向にはわが国における生活習慣の変化が密接にかかわっているが、こうした